

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信



発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム 2015年 7月号 VOL.52



文責：志村勇・土屋あすか 編集：櫻田亜矢子

みなさんこんにちは。緩和ケアチーム理学療法士 志村です。

去る、6月11日に第2回緩和ケア勉強会が開催されました。85名と多くの方にご参加頂き、大変活発な意見交換が行われました。その中で、緩和ケアの基本は、「笑顔で接すること」との発言がありました。最近、私が緩和ケア病棟で担当した患者さんに「笑顔」がとても素敵な方がみえました。その方は90歳を過ぎた男性です。訪室するといつもややつらそうな表情でベッドに横になってみえました。難聴があり、私が来たことを娘さんに教えられると、すくっと起き上がり、ベッドに腰かけて笑顔のおもてなしを毎回受けました。なんと娘さん2人も自然な笑顔で接していただきました。これまで多くの患者さんを担当してきましたが、こんな素敵な笑顔で迎えられるのは、初めての経験でした。私の頭の中はいつも「何でこんな笑顔でいられるの？」と疑問だらけでした。一度ご本人・ご家族に聞いてみようと思いつつ、聞けぬ間に1週間でご自宅に退院されました。今でも、あの笑顔が私の脳裏に焼き付いています。私たち緩和ケアチームは、他職種で連携して患者さんの笑顔がみられるよう努めていきたいと思えます。

緩和ケアチーム がん看護専門看護師 土屋（旧奥村）です。

梅雨があけました。今年も暑い夏が始まりますね。体調管理に気をつけないとですね。私は、この暑い中、ベトナムに行ってきました。旅の中で、フエという王宮のあった街に行った際、病院を見かけたので、運転手さんをお願いをして、立ち寄りさせてもらいました。広大な敷地に各科ごとの棟が建ち、迷子になりそうでした。敷地内をウロウロしていると、看板に「Oncology」の文字を発見、看板に案内され棟に行くと、1階には「Palliative Care Unit」の文字が!! 興味いっぱいの気持ちで、棟の中へ入ってみました。その棟には他に、2階に「Chemotherapy」、隣の棟に「Radiotherapy」「Surgery」と案内がされていました。がん医療がその棟ひとつに集中管理されているようでした。多くの患者さんがいらっしゃるので、もちろん、廊下を歩いただけですが、ベッドだけでなく、タイル張りの床に寝そべる方も・・・環境はどうであれ、緩和ケアによってひとりでも多くの方の辛い症状が和らいでいくことを願って・・・ベトナムの地でも緩和ケアの文字を見られたことはとてもうれしく思いました。緩和ケアは、私たち医療者が必要か必要じゃないかを定めるものではなく、患者や家族の当然の権利です・・・国も関係なく、どこでも誰でも緩和ケアが受けられることを願って・・・この夏もめいっぱい働きます。

<ベトナム ダナンの海>



第3回 緩和ケア勉強会

8月の勉強会予定

日時：平成27年8月20日(木) 18:00~19:30

場所：中央診療棟3階 講堂

内容：『家族介護力不足を多職種で支援した事例』

発表者：当院 緩和ケア内科医師・緩和ケア病棟看護師

訪問看護師陶の里 担当訪問看護師・陶の里ナースングデイ 担当看護師

陶の里ヘルパーステーション 担当ヘルパー

ケアプランセンターベルツリー 担当ケアマネージャー



ご参加お待ちしております☆

